京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●經濟上の滿洲（承前）

棉花綿布と大豆

滿洲は此迄印度南清から綿を取つて丁度日本の維新前後のやうに、綿で、個々で引いて一反宛織つて、何千万の人間の着物を供給して居つた、然るに獨逸亞米利加等の綿が段々南清方面から上海、芝罘、營口を經て滿洲に這入り込むやうになつてから、向ふで綿を引くことは止んで、亞米利加の綿を買込みそれを買ることになつた、段々交通便利が開けてからは、其綿を買込むことも段々少なくなつて、今日は綿布を買込む時代になつて居る日本でも滿洲に持込みます綿布綿絲が一番多い、丁度維新前後から今日迄日本が進み來つた順序を履んで居る、日本も始めは印度の綿或は南清の綿を買込んで居つたが、今日は日本の綿布を消費する時代に到着して居るから、滿洲に於てはまだ綿を造り進んで綿布を造ると云ふ時代に到着して居らぬ、それで極く夢のやうな勘定を立てゝ居るのは是から變化の時代は綿布綿を造るのが變化の時代でないか、此變化を飛越したら綿布を紡織で織ると云ふことにならぬか、是は工業家の十分研究を要することで、並に資本家の研究を要することであつて果してさう云ふ譯になるならば獨逸人或は英吉利人が手を着ける前に日本人が營口なり大連に往つて支那の賃銀の安いのを利用して、撫順炭の安い石炭を使つて紡績業及機織業等を起す時代が近付いて居らうかと思ふのである

又滿州の生命は大豆と鑛山とにありと云ふても不可なき次第でありますが、其大豆は從來は多く油を取つてさうして、其油を南清に送り油を取つた滓を日本に送つて商賈をして居つた、是が十中八九迄其目的で大豆は造られて居つた、然るに昨年の秋頃からして大豆が歐羅巴に大變往くやうになりました、昨年の十一月頃から十二月に掛けて六七千噸の船が何艘來ましたか、私が向ふを出發します間に殆ど七千噸許りの船か七八艘來たやうに承つて居ります、それが皆大豆を積んで英吉利に往く、是は實に昨年から始つた譯であつて、滿州の大豆問題に就いて大に攻究すべき點であらうと思ふ私など彼方此方で其話をしてさう云ふ所で大豆が歐羅巴に動くことになつたかと穿鑿を致しましたが今に眞實の目的を聞込みませぬ、或は曰く印度の菜種が不作をして是迄歐羅巴に菜種の油が大變消費されたものである、さうして又菜種の油絞糟あれが家畜の肥料になる、家畜を肥す爲に食べさせる、さう云ふ目的になつて居つたのが昨年大層印度の菜種の不作のあつた爲め、其不足を補ふ所から英吉利に滿州の大豆を持込むだのである、即ち菜種の油に代へるに大豆の油を以てし、菜種の締糟に代へるに大豆の締糟を以てすると云ふ話をする人がある、或は曰く獨逸に往くので、獨逸人が石鹸を造るのである、大豆で石鹸を造ると云へばどれ丈け造るか、世界にどの位消費するものがあるか知りませぬが、兎角石鹸を造ると云ふ人もある、又曰く油を取つて後の締糟で蛋白質の貯蓄食料を造るのである玉子の白味見たやうなものを造る、斯う云ふことを言ふ人がある、兎に角是が如何なる目的に使用されて居るかは大に研究すべき事柄である、若し是が非常に澤山歐羅巴に動くやうになつて來たならば、大豆の[illegible]精が上つて來る從つて日本の人造肥料とか北海道の窒素肥料と如ふ如きものは、工業家の考慮を要すべき影響が及んで來やうと思ふ、

●新刊紹介

●統監府通信事業第二年報　四十年四月より四十一年三月に至る迄の通信事業の施設經營に關する要項を網羅したるものなり第一編より第六編に亘り全頁四百四撥密にして精確に參考として見るべき價値あり（統監府通信管理局）

●東京經濟雜誌　「不正代議士の檢擧」「捕鯨會社の合同」「清國の外交と日本の地位」「我國民の缺點」等は本號の重要記事なり（一四八七號十二錢東京京橋區彌左衛門町東京經濟雜誌社）

●芳譚　「豊太閤醍醐の花見」「櫻」の二論は却々奇抜なる記事なり（四號五錢東京下谷區徒町芳譚雜誌社）

●銃獵界　「獵期を送る」「射擊に關する心理的作用」等外數種の記事あり（四號十錢橫濱金丸銃砲店）

●特許公報　依例特許番號類別發見名稱特許年月日出願年月日氏名等を掲げ併せて之が稀額の摸形を示したるものなり（七號十五錢統監府特許局編輯日韓書房發賣）

●商標公報　登錄番號氏名代理業者氏名等を載せ併せて商標を掲げしものなり（四號十五錢統監府特許局編輯日韓書房發賣）

佐倉宗吾（七十二）

眞龍齋貞水講演

宗五郎が不審に思つてる間に、圓珠院樣は答へて 圓「ア宗五郎、その不審は尤も至極ぢやが、愚僧は元來、故郷はやはり下總滑川で、四郎兵衛と云つた常使の倅、四郎吉と申した者ぢや 宗「エッそれでは貴僧樣は彼の滑川の四郎兵衛と云ふ者の御子息でございましたか 圓「常使を勤めて、微かに暮して居つたが、實は十一歳の時、父四郎兵衛は亡く成り、續いて十三歳の時に母は世を去り、孤兒となつて、滑川の不動院樣の住寺の御蔭で、十四歳までは何うにか成長いたしたが、思ひ詰めて上方へ上りたいと云ふ念を起し、不動院樣の御情けを以て、彼方から百文、此方から二百文と、路用の御惠みを戴つ、それを力に十四歳の時、住み馴れた故郷の滑川を後にして、上方へ登り、叡山へ入り、一心不亂に修業を致し二十五歳の時には既に學業も[illegible]選に[illegible]が、此關東、東叡山寛永寺より御招きは蒙りしは廿六歳の時であつたが、然るに其方が此寺へ參つてより、凌雲院殿よりめ[illegible]して、能く御目掛け下し置かい、既に御手代りと定まつた次第である、此恩を慎と耐へて居るならば、行々は大僧正には成れる、然れども、人を救ふ法用家の道むや、殊に我故郷の百姓詞が、困窮に陷るを見捨ぬて、之を助けやうと云ふ其方の精神、如何にも奇特に存ずるに依つて、此方が其事の容子を知つたる幸ひ、どうせ立腹を切つて死ぬ位ならば恐れ多き事なれども、愚僧が手引をして遣はすから、將軍家御參拜の其折に御靈屋より出て〻願書を直き〳〵に奉るが宜しい、若し願書御採上と云ふ事になれば、愚僧は直ちに自害をして相果てる覺悟、また其方さてても、重き御處刑を蒙るは勿論なれど、其願ひが屆いた以上は、多くの領分百姓が、一同安堵の思ひをなすであらう、其故愚僧が此心を打明けたいちや」聞き及びたる宗五はハラ〳〵と落涙なして 宗「前世如何なる御因縁があるか知りませぬが尊き御手代りの位地を棄てゝまで此宗吾を御助け下さる御厚志、死しても忘れは致しませぬ、希ぞ圓珠院樣、それでは十二月二十日、將軍家御靈屋へ御參拜の節御手引の程を願ひ上げます 圓「讐つて愚僧が受合つたから、安心いたせ 宗「ヘエ、勿体至極もございませぬ」と、一方は出家の道を正して、多くの人を助けると云ふ精神、一方は眞の義心から、多くの百姓の難儀を救はうと云ふ決心、互に顔見合せて落涙に及んだる時、圓珠院樣は 圓「さて宗吾さう話しが決つて見れば、茲に愚僧が頼みたい事があるが、受合つてくれまいか 宗「それは何事なりとも宗吾身に適ひました事なれば……圓「外ではない、茲に金子が百兩ある 宗「ハイ 圓「せめての事に、其御直訴を致す前に、此金を持つて、故郷の公津村へ參り其方の妻子に手當として、愚僧が心持を屆けてくれまいか 宗「エイッ 圓「イヤサ、其總き道理なれど、死する身に金は要らぬ此金は、圓珠院が其方の妻子に對し、心ばかりの形見ぢや、希ぞ此金を以て、故郷の公津村へ參り、之を妻子に手渡してくれぬ 宗「ハイ、返す〴〵も深き思召、有難く存じますが、なか〳〵郡方、または見廻りの役人が鵜の目鷹の眼で私共を探し居ります、江戸表でさへも此通り草を分け、瓦を剝しての詮議、御當院の御厄介に成らざれば、一日も月日を拜む事の叶はざる身の上、若し故郷へ乘込みましたならば、忽ちに御繩捕に相成り、大切なる御直訴を遂げる事が出來ますまいと存じます 圓「ア、イヤ、必ず氣遣うな、當上野三十六坊の御用を引受けてゐる者で、此下谷の坂本で、御籠屋渡世をしてゐる井筒屋五郎兵衛と云ふ者がある此五郎兵衛とて、以前上州邊の博徒の親分にして、大層立派な度胸なものであるが、今は改心して、御籠屋の親方、なか〳〵氣性の烈しき者ゆゑ、愚僧が此者に宜う依頼して、途中の程は、其方の身の上に何の過ちのなきやう取計つて遣すから、思ひ込んだる此一百兩、どうぞ其身の妻子に屆けてくれぬ 宗「ハイ……ハーイ有難う存じます」

京城新報

資本の勢力

英國資本の移入

資本とは何ぞ、各學者の說異なる所ありと雖も、之を單純に云へば資本とは自然と勞力との結果也、則ち勞力の蓄積也、文明國に於ては此資本の勢力頗る大にして何ものも之に抵抗する能はず、要するに文明とは資本の勢力の發現に外ならず

韓國の現狀は今更に說く迄もなく、文明の程度極て低く原始時代と相隔る僅に一步のみたるの觀なくんばあらず、之れ則ち資本の缺乏に依る結果なり、現時の狀態に於ては到底何事も爲すこと能はず、之れ果して喜ぶべきの現象なりや否や、從來韓國に於ては資本なるものを多く使用し居らず、僅かに少數の鑛山事業を除きては殆ど絕無と云ふも可なり、從て文明諸國の如く資本の跋扈と云ふものなし、之れ啻に韓人間のみに止らず在住邦人に於ても亦然り、抑も資本の跋扈する所以は則ち資本の勢力に依りて自然力を應用するに據る、是を以て資本其者は自然力也と云ふも不可なし、人類が風若しくは雨の自然力に抵抗する能はざると同じく、資本即ち偉大なる自然力の應用には敵する能はず、玆に至つて資本の勢力も亦大なりと云ふべき也、

現時の韓國に於ては資本の力を應用すること少きを以て、韓人は勿論在住邦人も皆勞働の戰のみ、從て個人性の發揮は自由なりと雖も、雄大なる事業の興起は望む可らず、蓋し個人性の發揮は無秩序と社會の平等を意味す、斯る狀態は果して滿足すべき現象なりや、苟も近代の文明に追隨せんと欲すれば現在の境界に甘ずべからず、宜しく發展の途を講ぜざる可らず、要するに韓國經營とは取りも直さず資本則ち自然力の應用を進步せしむるにあり、是れ世界の大勢にして其波動は早晚必ず來るべきもの亦務めて來らしめざる可らず、余輩の知る處を以てすれば東拓會社の社債募集の外に近々英國の大資本が韓國に移入せらるべしと云ふ果して英國の資本が移入せらるゝならば鑛山業其他の事業は頓に發展せらるべし、斯の如く韓國も漸次外國の資本輸入し來りて自然力の應用盛なるに至れば、從來の如く勞力と勞力との競爭は自然休止し、從て平等的の社會は勢ひ階級的とならざるを得ず、資本の輸入を歡迎し文明の進步を冀望するものは社會の複雜となり階級的となることを豫め覺悟せざる可らず、資本の增加すると共に其威力の加はるは自然の數也、一方に於て資本の輸入と偉大なる自然力の應用を望みながら一方に於て社會の平等を望むが如きは到底無理なる注文にして二者決して兩立すべきものに非ず、資本の應用盛ならざれば文明は進步せず、文明の社會は複雜也、資本の威力强大なるに從て社會の階級的となるは勢ひ止むを得ざる也、未開の時代則ち勞力競爭の時代の社會は單純にして平等的也、今や韓國も資本威力の時代たらんとす、韓人も在住邦人も共に須く考慮して此時代に應じて韓國の開發に資するの覺悟を要する也

東京電報

▲治外法權交涉開始　香阪法務院長倉富法部次官は我外務省と打合せを了し韓國に於ける治外法權の撤去に關し列國の大使及び公使と交涉を開始したり

▲宋氏漫遊中止　宋秉畯は歐米漫遊を中止し本邦地方行政其の他の視察を爲す由

▲紀念章の下賜　東宮殿下渡韓紀念章は十日頃日韓人七百九十名に對し下賜さるべし（以上四日發）

外報一束

●露兵侵入事件　既報の如く兆南府附近露兵駐屯の件につき清國より撤退を要求すれども露國は通商貿易を口實として撤退を肯せず徐總督は更に兆南府は開放地にあらざれば外人は通商の權なしとて抗議し且外務部に電照して露國公使と論爭せんことを求めたるが露國は既に兆南府正門內に土地を借入れ領事館の建築に着手せりと傳へらる

●英實業界の失望　英國の實業界は出納尙書ロイド、ジョーヂ氏の發表せる豫算に對し甚しき失望を感じたりと火酒及び煙草消費稅及び酒小賣營業稅に對しては反對の聲高く又自働車、自働二輪車及び石油は何れも課稅せられ所得稅も亦增率せらるゝことゝなり居れり

●日本浮世繪賣却　米人ハッパー氏所有の日本浮世繪賣却代金は總計六千磅以上に上れり

●土都戒嚴の緩和　土都君士坦丁堡に施かれたる戒嚴令は其嚴烈の度を緩めり

●露國駐屯軍禁酒　長春よりの報に依れば露國は極東駐屯軍隊に對してウオッカ酒を飲むことを禁じ若し軍隊にウオッカ酒を賣る者ある時は三百留の罰金に處する旨公布せり

●大阪市債の成功　倫敦株式市場に於て大坂市債は法外なる大成功をなし募集を開始するや否や殆ど直に締切となりたり又其の價格騰貴し一磅半の打歩を見るに至りたりと

雜報

●帝室債務決定　帝室債務支拂請願の件に對し臨時財產整理局長は帝室債務審查會の議決を經て左の如く支拂決定したりと

一金一萬千四百九十八圓　京城　李秉惠
但琥珀珠、眞珠及麝香上納代金
一金二萬圓　京城　李根培
但白玉半座風外五十二點上納代金
一金二萬圓　京城　朴弘錫
但皇室に貸納金
一金五百圓　大韓國赤十字社
但光武十一年皇室より下賜金券面額
一金二千百五十六圓　京城　張容汲
但皇室に對する貸付金殘額
一金四千三百九十四圓　京城　李鐘浩
但麻布上納代金
一金一萬一千二百圓　淸國人　陶提三
但官參買手數料
一金二万五千五百圓　京城　李鳳來
但皇室へ貸納金
一金一千圓　京城　辛映德外廿六名
但扈衛隊軍官奉職中下賜金

●東拓の荷爲替事業　東拓會社の荷爲替事業は貸付規則の內より省かれたりと雖も他の方法にて認可を得たる由にて即ち農產物及獲得物の荷爲替取組は東洋拓殖會社法第十三條の規定に依り必要なる附帶事業として營むことを許されたりと因に貸付に調する件にて質問あるものは岩佐理事、笹岡課長又は谷野調查役に就て聞かるべしと

●勝田局長歡迎會　經濟協會にては來る六日入京の筈なる大藏省理財局長勝田主計氏を八日（土曜）正午京城ホテルに招待し晝餐會を兼ね歡迎會を催す由なり

●定例參與官會議　昨日午前十時より統監府に於て各參與官參集し會議を開きしが大臣會議は副統監不在の爲め開會なかりしと云ふ

●財務監督局長會議　一昨三日より開會したる財務監督局長會議は昨四日も續いて開會したるが會議事項は既報問題に就き其の大體を議しつゝありと

●金融組合理事會議　金融組合理事は一昨日午前十一時より漢城財務監督局に參集し監督局長代理として有田事務官議長席に着き度支部理財局より提出せる諮問案に就き會議を開けり

●恩賜金管理規程　嚢に韓皇北韓巡狩の際平安北道の敎育基金として金員を御下賜ありたるが同觀察府にては今回恩賜金管理規程を制定したりと

●中央農會支部總會　中央農會平壤支部にては去る一日農事模範場內に於て總會を開きたるが會するもの來賓を合せて百餘名李會長開會の辭を述べ中村農務局長は會に對する希望及び農事に就て有益なる演說をなしたりと

●京商役員會決議　京城日本人商業會議所に於ては一昨三日午後七時より役員會開會中村會頭、增田、池田、林田等の諸氏出席二三重要なる事項に付き協議したるが就中京城龍山間電話通話料廢止請願の件は最も機宜に適したるものにして直に決議し其筋に請願することゝなしたり今其請願の理由とする處を聞くに概要左の如し

京城龍山間の關係は日一日頻繁を加へ殊に昨年四月鐵道運賃改正の結果容積の長大なるもの石炭、木炭、木材等建築材料の類は多く水運により仁川より龍山に廻漕し陸上をなすに至れり又た一面龍山の發展と共に建築材料其他龍山に積卸しする貨物も其大部分の荷主は京城にあるを以て一層通信の頻繁を見るに至れり然るに現今にては通話料を徵收するのみならず回線不足の爲め自在に通話を爲すこと能はず甚しきは三十分乃至四十分以上を待つにあらざれば通話の目的を達する能はざることあり如斯は既に電話の效用なきのみならず商機を逸すること多く延て一般商業上の發展を阻碍すること尠なからず故に京城龍山間の電話に關する通話料を廢止し同時に通話に差支なき程度迄回線を增加し同一區內の取扱をなすことと右の件に付き同會議所に於ては龍山民團にも交涉し双方より請願書提出することとしたれば一兩日中に其運ひに至るべしと云ふ

●東拓監事の調查　過日入京したる東洋拓殖會社の監事松平及野田の兩氏は本月下旬東京に於て開かるべき總會に報告の爲め東拓會社の各課に亘り諸種の事項に就きて調查中なるが驛屯土に關しては特に精密の調查を爲しつゝありと

●吉原副總裁咸原着　目下木浦地方を視察中なる吉原東洋拓殖副總裁は昨四日午前咸原に到着せし旨電報ありたりと

●忠北道の郡守會議　忠淸北道にては郡守會議を開き敎育擴張農業模範場及度量衡の均一等を議定したりと

●兩監事の蠶島視察　目下來京中なる東拓監事松平子爵及び野田氏は本日字佐川總裁同行蠶島園藝模範場を視察すべしと

●牛病防遏の計畫　韓國の傳染病たる炭疽は不絕各地に發生しこれが爲め牛畜を失ふ數多大なるに就ては其の豫防法として昨年以來農商工部に於ては流行地に豫防接種液の注射を施行せしに顯著の效驗を呈したるより本年は大規模にて各地に接種法を施行する由にて目下夫れ〳〵準備中なりと云ふ

●共進會へ出品通牒　來る四十三年三月十一日より五月九日迄福岡縣福岡市に於て開催さるべき第十三回九州沖繩八縣聯合共進會に對し韓國の物產及韓人向商品等の參考品出品勸誘方同縣知事より其筋へ通牒し來りたる由なるが其の際は振つて出品する郡可なるべく又出品希望者にして規則書を要するものは京城日本人商業會議所に就て熟覽せらるべし

●貨幣發行高週報　一銀總支店四月二十五日より五月一日迄の貨幣發行高左の如し

一第一銀行券總發行平均高	九、〇一五、二〇〇
內正貨準備發行額	三、〇二七、八〇〇
保證準備發行額	五、九八七、四〇〇
二銀行券平均手許有高	六七二、七五〇
三平均流通高	八、三四二、四五〇

硬貨發行 五月一日現在 四行類	四、二一五、四九〇
內金貨二十圓	一、三五〇、〇〇〇
同十圓	五〇、〇〇〇
銀貨五十錢	六六五、〇〇〇
同廿錢	七一七、〇〇〇
同十錢	三九〇、〇〇〇
白銅貨五錢	七九七、一〇〇
青銅貨一錢	一三五、〇八〇
同五厘	六一、三一〇
金貨五圓	五〇、〇〇〇

●東拓貸付規則　既報の如く東拓の貸付規則は愈々三日付を以て其筋の認可を經たるが其全文左の如し

第一條　本會社に於ける貸付は法律定款及本規則に依る

第二條　借入を請求せんとする者は本會社所定の請求書及關係書類を提出すべし

第三條　調查上必要なりと認むる時は借入請求者より隨時關係書類を提出せしむることあるべし

第四條　擔保物件の鑑定及調查に必要なる費用は之れを豫約せしめ貸付拒絕の場合と雖も返還せざるものとす

第五條　貸付の方法、期限及据置期間は金額使用の目的事業の難易並に收益の多寡等により之を定むるものとす

第六條　不動產を擔保として貸付くる金額は鑑定價格の三分の二以內の範圍に於て擔保物件の位置、種類及信用の原簿等に依り之を斟酌するものとす

第七條　擔保として徵する建物は本會社指定の火災保險會社に於て保險しあるものにして其の金額は貸付金額以上たるべきものとす

前項の保險證券は保險金付付の承諾書と共に借入れの際本會社に交付せしむるものとす

第八條　擔保として徵する農產物又は獲得物は指定の倉庫に保管せられ且つ確實なる保險付のものたるべし

前項の擔保品に對する預り證券、質入證券、保險證券及保險金轉付承諾書は借入の際當會社に交付せしむるものとす

第九條　削除

第十條　貸付金に對して隨時社員を派遣し又は其他の方法に依り擔保物件の情況及貸付金使用の實況を調查せしむる事あるべし

前項調查に依り法律、定款及契約に違反せる事蹟ありと認むる時は貸付金全部若しくは一部の期限前償還又は增擔保を要求する事あるべし

第十一條　移住民に對する移住費貸付は別に之れを定む

●課稅免許の外人　在韓國外國人にして課稅免許の特權を有する者は左の法人及個人等なりと

（一）米國オリエンタルコンソリデーテッドマーニング會社雲山金鑛特准合同（二）日本澁澤榮一淺野總一郎稷山金鑛採掘合同（三）佛人イ、サルタレル、鐵山採掘昌城郡合同（四）英國コリアン、ウオーター、ウオークス、リミテッド水道特准合同（五）英國コリアン、シンジゲート、リミテッド遂安金鑛特許合同（六）伊太利國イタリアナ、ミニエーレ、コレア會社原昌鑛山特許約宗

●四月取扱運輸收入　四月中取扱ひたる鐵道管理局運輸收入中客車收入十八萬二千三百九十三圓三十四錢一日平均六千七十九圓七十八錢貨車收入十三萬五千二百八十五圓五十七錢一日平均四千五百九圓五十二錢合計三十一万七千六百七十八圓九十一錢一日平均一萬五百八十九圓三十錢なりと

●四月中の連絡旅客　四月中に於ける關釜連絡旅客の渡日者は二千六十七人一日平均六十九人小手荷物千九百十八個一日平均六十四個渡韓者三千九百七十八人一日平均百三十三人小手荷物四千六百六十七個一日平均百五十六個なりと

●平南線築堤と橋梁　平南線豫定地測量は其後着々步を進めつゝあるが更らに聞く所に依れば平南間の巨離は三十五哩にして其の築堤を坪數にするときは約二十五萬坪に當り而して其內切取るべき個所は約十七萬坪程あり其の個所は豫定地を變更したる爲め當初測量の時より多少增加したる由なり尙は此間に於ける橋梁の數は大小三十三ヶ所又たコルベルトは二十ヶ所の豫定なりと云ふ

●平南線と中間驛　平南鐵道の中間驛設置個所は太平洞、岐陽、眞池洞の三ヶ所に略ぼ決定せし由なりしも結局龍岡、江西、平壤の三郡に各一個所づゝ都合三個所の停車場を置く事に決定せりと

●善行賞狀を下附す　內部大臣は鏡城郡居崔召史永柔郡居李輔黨並に豊德郡居柳冀衡の三名に對し特に善行賞狀を附與したりと

●四月中京城戶口數　四月中の出生人員男五百九十九人女四百八十八人計千八十七人の增加にして死亡及退去者男七十七人女七十八人計百五十五人戶口增加二百三十一戶減少二十六戶現在人口男一万三千二百九十一人女一萬七百六十人計二万四千五十一人戶數六千八百八十二戶なりと

●日の出新聞の祝宴　本月九日（日曜日）は龍山日の出新聞創刊滿一周年に相當するを以て渡邊同社長は同日午後一時日韓の紳士數百名を龍山桃仙閣に招き祝宴を催す由

●第五回幼々會開會　幼々會第五回例會は去る二日西小門外の高丘に於て催されたるが來會者百八十餘名午前十一時に至るや小田書記官の挨拶に次で會長俵次官の演說あり了つて余興に移りたるが却々の盛大なりしと

●木浦海壁改修工事　木浦海壁は從來再三度改修したるも暴風毎に崩壞し永續せずして今日に及びたるが過般臨時稅關工事部に於て改修工事を起したるが去月下旬竣工せりと費用は總計六千百八十九圓九十七錢五厘を要したりと

●內部官吏大運動會　內部及警視廳、大韓醫院並に漢城府所屬官吏は來る九日（日曜日）午前十時より獎忠壇に於て聯合大運動會を開く由其の準備委員には澤田局長、平渡、高橋、岩井、武石、新庄、菱田、石丸、青木の諸氏を擧げたりと

●仁川港出入船舶　仁川港に一昨日碇泊せし汽船は揚武、深川、弓張、東照、海利、三省、錦江、龍湖、住の江、文月の十隻にして出港船は深川丸一隻なり

●辭任　統監府囑託　堯田靜治
仁川へ出張を命ず　統監府屬　入江海平
仁川群山木浦へ出張を命ず
任財務監督局事務官叙奏任官三等　水口隆三
竹山郡守　趙鏞夏
任利川郡守叙奏任官四等
九品　金衡玉
任昌平郡守奏任官四等

公人私人

▲松田鐵助（稅關鑑定官）三日入京佐藤旅館
▲江田俊助（三菱造船所員）同上不知火館
▲藤掛眞一（金城金融組合理事）同上三日月旅館
▲遠藤善十郎（度支部建築技師）同上山本旅館
▲吉田佐一郎（東京辯護士）同上

近事片々

▲周宮 內親王殿下と成久王殿下との御婚儀は去廿九日芽出度大禮を擧げさせ給へり
▲成久 王の御發明周宮內親王の御貞淑眞に雙美の御伉儷竹の園の御榮へ最と喜ばし
▲皇孫 淳宮殿下の御悧發に渡らせらるゝは夙に承はる所頃者一揚法師の御演說あり
▲悠然 として演壇に起たせられ極て流暢に御演說遊ばさる表情柳揚頗控御見事也と
▲而も 廿五分に亘て滔々と述させ給ふ並居る面々皆感歎す殿下前途の榮光察せらる
▲夙に 承る所に依れば我皇太子殿下には歐米御漫遊の御希望有との御事最と歡ばし
▲果し て御漫遊に上らるゝとすれば世界名國帝室の御歡迎の程左こそと思はれ奉る
▲御漫 遊の際には伊藤公大山大將東郷大將の面々供奉せられん從て世界を動かさむ
▲哈爾 賓に於て露淸勞働者の爭鬪あり死傷無數と衝突の原因何れか果して非なりや
▲蒙古 兆南に於ては露國貿易事務官の一行淸國官憲の抗議を無視し官署を建築すと
▲兆南 は不開放地故に撤退を要求するも露事務官頑として應せず是れ矢張露國式也
▲事の 是非は別問題として露官憲の態度と日本官憲の態度を比較すれば何の感ある
▲彼斯 の騷亂は露軍に依りて稍鎭定し秩序を保たる將來露國撤退の時期來るべき乎
▲英獨 亦野心なきに非ず露國は無論何等かの要求あらむ結局分割とならざるや否や
▲土國 新帝即位し先帝は終にサロニカに隱退せしめらる朱丹の末路も亦憐れなる哉
▲新帝 自由政治最初の帝王たりと宣ふ果して新帝は能く立憲政治を完成せしむるか
▲或人 片々子に向て韓國統監には如何なる人物を以て可なりとするやと問ひ來れり
▲片々 是に答へて曰く僕の理想を言はしめば三代將軍德川家光の如き果斷の人物也
▲家光 三代の征夷大將軍となるや諸侯を召集し儼然として臣下の禮を取れと命せり
▲若し 不服ならば還て兵馬の準備せよと其威容壯嚴流石に獨眼龍異先に誓言を爲す
▲斯る 威嚴意氣なくんば異に半島保護の任を完ふする能はず家光と伊公の差幾何ぞ
▲ル氏 今や亞弗利加の蠻地に入らんとす獅子水牛の群に接する近にあり愉絕快絕也

●所屬船文川丸改稱　汽船文川丸は燕丸[illegible]

●仁川築港と繁榮策

[illegible]仁川築港問題は頗る其實行を期すると[illegible]は固より猶足なりと雖も其の以前に於て先づ仁川の不景氣を恢復して其[illegible]港計畫は至大の資金を要する上に短日月に[illegible]方法は種々ありと雖も先づ[illegible]復線して沿岸航路を起し附近島嶼の交通を便にし漢江、臨津江等の河川を利用以て運輸を謀ると同時に仁川附近の米穀を搬出する爲め道路の修繕工事を爲さゞる可から[illegible]

▲貿易 は仁川の生命なれば盛んに產業を起すの計畫を立て附近の農園は蔬菜及果樹の栽培を爲し干潟の利用漁業の擴張に注意し米安鹽田の事業に就ても計畫なかる可[illegible]易きものより着手し漢江の沿岸は柳の植付[illegible]以上の方法を講ずるには所謂港事トラスチ一的繁榮會なるものを組織し之れが會員と[illegible]隊長、水產組合及其他の有力なる公私人を擧げて其計畫を實行すれば自然に繁榮を期するに至るならん

[illegible]り入港仁川支部の工事に從事すべしといふ

●仁川築港と繁榮策

度支部臨時財源調査局技師某氏の談なりといふを聞くに近來仁川の築港問題は頗る其の聲が大になりたるは同港の爲めに喜ぶべきことなり然れども仁川の人士が唱導せる築港計畫は至大の資金を要する上に短日月に於ては到底成就し得ざるものなれば之れが實行を期するは固より賛成なりと雖も其以前に於て仁川の不景氣を恢復して繁榮策を講するを最大急務なりとす而して其方法は種々ありと雖も先づ▲交通機關[illegible]沿岸航路を起し附近島嶼の交通を便にし漢江、臨津江等の河川を利用し以て運輸を謀ると同時に仁川附近の米穀を搬出するの計畫を立て附近の農園は蔬菜及果樹の栽培を爲し干潟の利用漁業の擴張に注[illegible]▲貿易は仁川の生命なれば盛んに產業を起すの計劃を[illegible]以上の方法を講ずるには所謂港市トラストする[illegible]一的繁榮會なるものを組織し之れが會員と[illegible]水產組合及其他の有力なる公私人を擧げて其計畫を實行すれば自然に繁榮を期するに至るならん

●所屬船文川丸改稱 [illegible]文川丸は[illegible]入港仁川支部の工事に從事すべしといふ

雙影（五）

南船北馬樓主人

第二章 落膽（二）

仲居は唯だ呆きれて、

「まあ、君ちやん、何うしたんだよ……さうやつて唯だ泣いてばかり居たつて、何が何やら妾にはちつとも譯が分らないぢやないかね。」

問はれても、君子は唯だ言葉はなくて、切なさうに歔欷するばかり、

「那麼に泣いてばかり居らずと、早く譯を話しよ。」

「姐さん……妾、妾はど……どうしたらよからう。」

「だからさ、早く譯を話しと云ふのぢやないかね、それとも山田さんが外に情婦でも出來たと云ふのかい。」

「そんな事なら妾はどうでもいゝんですが」

「爾うでないなら、那麼ことだか唯だ泣いてばかり居ては、妾には薩張譯か分らないのだよ、だから、さあ、早くちやつと其譯をお話しよ。」

「姐さん、實はね……」

と云はふとしたが、又た泪に遮られたか、あとは得云はず、其儘ワッと咽び入つて仕舞ふ、仲居はもどかしさうに、少し怒氣を含んで、

「お前さんのやうに、那麼に泣いてばかり居ては何が何だか、ちつとも譯が分りやしない。」

君子も漸く涙を收めて語り出したが、其要領を書けば摭うである。

君子は今日家を出て、山田に會ふべく、早速旭町の某下宿を訪ふた、車の停まるのを待ち兼ねて、梶棒の地に着くか着かぬに、ヒラリと降りて、玄關で、山田さんは、と訊ねると、今朝ほど家を引越したと云ふ、悴つとして、何處へと、問ひ返へすと、何處だか知りませんと、頗る余所々々しい、癪に障らぬでもなかつたが、那麼ことより第一山田の行衛が案じられるので、早速山田が勤て居る役所に行つて訊く積りで、引返へすと、郵便箱のある四ツ角から、南へ右側の三軒目、淺黄暖簾に白拔のとも忍湯の前で、バッタリ出會つたのが、山田の親友『杉村さん』通稱を破魔王と呼ばれて仕事嫌いの浮浪漢、好く云へば豪傑肌の變物で、年は人生の半ばを過て未だ家をなさず近頃同鄕人の辯護士の許に居り候

「れ、君ちやんか。」

と云つたが、何故か進まぬ顔で、そのまゝテクゝと行かうとするのを、呼び止めて、山田の宿所を知らぬかと聞ふと、知らぬでもないが云はぬと云ふ、憤として、夫れでは能うムんか、妾は之れから役所へ行つて訊ねるからさ、車を返へさうとする君子を呼び止めて、杉村は『駄目だ、〳〵、役所へ行つて山田の宿所が分るものか、山田は昨日限り役所を廢したのだ……と云ふより廢させられたのだ』と云つて撫然とする「ねツ」と流石に驚いて、事情を聞いて見れば、委敷く話しても聽かせぬが、何うやら役所の金でも費消つたらしい、それが爲めの免職、之れも夫れも自分故ではあるまいかと思ふと、君子は今朝の手紙を見た時の怨みより、寧ろ山田の身が懸然で、どうでも會いたいといふ念が增して、そのまゝ車を走らせて、目的もなく、方法を探し廻つたが、遂々知る事が出來なかつたと……

●職に斃れたる故仁川署巡査部長山内長三郎氏の爲め同縣人一般に對し寄附金募集中なりしが昨日仁川署を經て遺族に金二百五十四圓五十二錢を贈りたりと云ふ

●拾圓のチゲ賃 昨日の本紙三面欄に擔軍を撲ると題して記載したる明治町二丁目菓子商門野杢太郎（三十）がチゲ賃の增金を請求爲られたるに立腹して其擔軍を撲り飛ばしたる事件は昨日南部署にて示談を遂げ杢太郎より金十圓を出して事濟みたりと

●小桝さんと花奴君 仁川淺岡の小桝は病氣にて休業中の處昨日より就業し同樓の花奴は病氣のため同日より休業せりと一寸粹樓まで

●酌婦のドロン 仁川寺町の飲食店筑後亭の酌婦川口樂也（二三）は情夫と手に手を取りて駈落ちを極め込みしかば亭主は狼狽して其の筋に搜査願を差出す

●月下樓の新妓 昨年迄仁川敷島遊廓常盤樓にありし花町事德嶋市古物町高島ひさ（二十）は昨日新町月下樓より源氏名を花子と名乘りて張店の列に加はる

●ヨボに撲られた弱虫

△治療料五圓貰つて事濟

京城寺町六丁目居住の池田光藏（三十）と云へるは南大門通日の丸市場にて野采を商ふ者なるが去る一日同じく南大門通に野菜の露店を張り居れる韓人裵世寛（七十）より野菜若干を買入れしも少しく高値にて賣行き面白からざるにぞ同日午後八時三十分頃件の韓人方に至り買戻し呉るゝ樣懇請したるも韓人は聞入れず一口二口爭ふ内互に摑合を初めたるが二三韓人の聽援する者ありし爲め光藏はシタゝカに撲り付けられたる處へ警官出張して兩人を警察署に引致し取調の結果裵世寛に治療料金五圓を出しめて事濟

●人の妻を撲る

仁川海岸魚市場棧橋へ繫留の帆船松尾丸乘組員佐賀縣生れの野村藤太郎（三十）の本船へ一昨日午後九時頃同地京町天草屋へ止宿中の西某と云ふが遊びに至り種々雜談の末野村の妻ツルと云ふが横合より八釜間敷とか何とか入らぬ口を叩きしを西は痛くも立腹し此尼女奴とばかり面部外數ヶ所を撲り飛ばしたる騷ぎに警官出張双方に對し嚴しく說諭を加へたり

●馬の捨主判る

仁川山根町居住の牛乳屋上野文次郎は曩に馬一頭を拾得したる旨屆出でし由は當時の紙上に報せしが右は同地牛角洞居住の韓人李天白の所有に係るものと判明せしかば一昨日仁川署を介して同人に引渡したるが其際韓人より飼養料及び報勞金を呈せんと申込みたるも上野は斷じて之れを辭退せりとは奇特とや言はん

●鎧の陳列

本町通りなる近藤骨董店にては一兩日前より珍藏の緋縅、紺糸縅等の鎧を店頭に陳列したる所日韓人の來觀者非常に多く昨日の如きは混雜の爲め硝子窓を押し破りたる程なりしと因に記す右は節句當て込みの仕入品とは事違ひ由緒正しき時代鎧にして母國に於ても多く得安からざる珍品なりと云へば硝子窓を打ち毀さぬ樣要心して一見に出掛らるべしとれ勸申す

●殉職者に贈金

仁川在留中上藤太郎氏外二名發起人となり曩に江華島にて其

●安西商會の發展 大阪西區松島町二丁目特許製綿機製造發賣元安西商會は斯業開始以來一層研鑽を積み精選し良機を製出し其効用に於ては舶來カワード機に比し價格低廉使用上頗る良好にて實驗者の好評を博し今日の盛況に達したる老舗なるが更に支店を增設し益々業務を擴張する由詳細說明書等は申込次第無代進呈すると

●朝鮮五月號 愈々出で、愈々盛なり口繪には「日本觀光團員」及び「平壤愛國婦人會員」の寫眞を掲げ内容は例に依りて時事評論、論說、主張、研究、富源、人物評判記、文藝、雜纂、名流談話等何れも有益にして趣味溢るゝ許りなり殊に三稅問題に就ての諸名家の意見、無名子の「統監府と東洋拓殖會社」旭邦子の「排日思想と排韓思想」ヒマラヤ山人の「統監府中の人物」等は本號の讀物なり（三卷三號二十五錢京城本町九丁目朝鮮雜誌社）

▲近藤佐五郎氏よりの來翰

「骨董商の鑑定違ひ」と題して掲載したる記事に對し當時の鑑定家近藤佐五郎氏より左の來翰ありたり

拜啓貴紙牛乘の圖穩滑脫艶麗なる御筆にも似ず隨分露骨なる素破拔には聊か一驚致候

骨董商物見違ひはなきものを　人見違ひは近藤はじめて

和田近藤峰岸までが見違ひし　高麗の平野は國のはな園

●四月中の屠獸數 仁川港に於ける四月中の屠獸數を聞くに牛七十九頭豚一頭なり

●ぶらつ記（一）

ぼく

五月二日、漸くにして晩食を終す、時計を見る十二時也、起つて南窓を排す月光蒼然として夜色淡きこと水の如し、微醉を帶びて月下に逍遙す又風流ならずとせんや遊心暴かに動く、即ち出づ、敢て京城の夜の秘密を覗んとにはあらざる也。本町裏通りを一直線に宛かも我が腕に抱かれて夢安らけく眠れる妹の息の如、あるとしも覺ねぬ行春の夜の風の、やゝ熱き我頰を弄るに任かせて、新町方面に步を運ぶ。

誰一人にも逢はず。

元軍司令部前近の右手の角の所に夜の靜寂を破つて男女の密語けるを見る歩を進めて驚かさんも心なし、さらば歸らんか、幵も又殘り惜し小暗き方に躱れ行みて其の去るを待つ。

見るともなく打ち戍る、女は歳の頃二十二三、色稍や赤き丸顔に溢るゝ許りの愛嬌あり、男は廿八九にもや頗る付きのハイカラ男官吏か會社員か月に背きて立ちたれば面知るに由緒なきも詮なし。

「ねー、田中さん今晚は泊つて行つても宜いでしよう……イヽエ大丈夫來つこなし……大丈夫よ万一來た所でそんな心配はさせませんよ、旦那を胡魔化す位……」

間隔近からずして聞く可らず、相携へて韓洋亭の手前の或る巷路に入る、解語花を培ふものは、春の夜風に心せよや。

梅の家の横を新町に入る、慘たる哉、這箇の花柳街、二百人近くの阿嬌稍や精巧なる頗る粗末なる面と顔とを突き合はせて疊算やら鼠鳴、總ゆる禁呪の數を盡せど阿郎何くにか適ける、影も見せず、此の阿嬌の涙なりとかや。

本町通りに出づ、夜深うして人影絕ねたり各戶の軒燈徒らに耿々の光を放てるのみ。倏ち人あり肩を掠めて行く、女なり、男なり。女は三十一、二か、丸髷姿の色は何にやら丸に蔦の三ツ紋附羽織、男は二十五か七か、衣袂風に翻りて蘭香我が向上的鼻孔を來り襲ふ、多く嗅ぐに堪えず、鼻を掩ふて跡を踊ふ。

斯くとも知らでや耳に口つけて囁き合へり兩人はット待合嬉野に入る傪なの戀や。霧雲月光をかくして夜沈々。即ち歸り寐ぬ。

●天氣豫報（自四日午後六時至五日午後六時）

西の風曇後晴

四日		
最高溫度	（華氏）	五九、七
最低溫度		五一、六

●警戒 低氣壓は双子列島にあり風强かるべし氣壓は七百五十七粍を示し北東に向つて進まんとす韓國北部及中部を警戒す

廣告

▲無料紹介欄▼

人事部

多少法律事務に心得ある事務員一人雇ひ入れたし希望者は午前九時御越の事
明治町二の七五岩田辯護士（二三三）

下女入用　年齡不問　給金働き次第　氏名在社（二三二）

雇はれたし　家族少なき家を望む十九女（氏名在社）

職弟子入用　但し當地に確實なる保證人有者
明治町二丁目　衛生床（二三五）

年十七高等小學卒業商店又は役所の給仕に被雇たし　氏名在社（二三八）

年廿五体强簿記精通會社商店へ雇はれたし確實保證人あり給料多額を望ます　氏名在社（二四〇）

中等敎育有り七八年判任文官奉職何れにても雇はれたし給料望ます確實保證人あり　氏名在社（二三九）

長崎縣人　佐藤コノ　上記の人住所御存知の方は乍御手數京城旭町一丁目池田質店迄御報を乞（二四五）

年三十体强血正月收一〇〇相當の品格ある處女と結婚したし　氏名在社（三四六）

女中入用年齡問はず淸潔好きの者身元保證人を要す　南山町一の四七　月報社篠塚

●雇入　十五歲以上二十歲以下丁稚至急入用　龍山元町三　日韓組

物件部

賣家　大和町三七地百餘坪の建物あり官吏向に適し風景最もよし望の方は御來談あれ　社內　矢島

貸間　旭町一丁目至極便利の場所電話附（又は賄附にても）にて二間貸したし　氏名在社（二三九）

貸家　若草町一温突一間疊敷二間日本流押込二外に炊事場玄關井戶付家賃二三五〇　若草町一の一二九矢島（二四一）

貸家　若草町一温突二間疊敷二間日本流押込付外に炊事場玄關井戶付家賃二三五〇　若草町一の一二九矢嶋（二四二）

貸家　若草町一温突三間半疊敷一間炊事場押込付家賃一三五〇　若草町一の一二九矢島（二四三）

求貸家　西大門外西小門外方面なる四五十間の韓人家屋を格安にて貸受けたし　氏名在社（二四七）

貸家　南大門附近目拔の場所總二階間數十六疊敷六十五造作敷金共百五十圓　旭町一の六十　旭町競賣所

廣告

醫術開業廣告
五月一日より六丁目共愛社醫院跡にて
眼科
內科
外科
花柳病科
瀧澤醫院
特に眼科は河本博士に多年親灸せり
東京醫科大學撰科卒業
同國家醫學講習科卒業
瀧澤喜太郎

▲淸潔の下宿▼
客室の淸潔と調理の美味と御扱の懇切とを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候
壽町二丁目十番戶橫小路（元花屋跡）
▲懇切の下宿▼
かめ屋

辯護士　岡田榮
熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ（紹介ヲ要セス）
京城旭町一丁目六十七番戶
（電話三九八番）

足踏
精米麥搗機
發賣元
本店……大阪市西區江戶堀橋南入
支店……東京市神田區元佐久間町
福井商會
▲東京上野特許品大坂內國製産品博覽會出品好評嘖々▼
上圖の如き形体頗る簡易なる精白機にして土臺を除き全部鐵製なれば永久破損の憂ひなく一度足を踏めば杵は五回搗下し一分間三百回を促し精白五十分發熱絶無固有の美味を損せず婦人小供と雖も輕快に作業す目下東西博覽會にて好評嘖々賣行最も盛なり定價は他機の殆ど半價石臼付八十五圓也
▲特約店　至急募集す營業案內及特約規定皆送料二錢を要す

●廢物利用●
一金口煙草空箱買入れ申候
但百本入に限る
上等金口トルコ煙草發賣所
京城本町四丁目
パ子リス商會

石炭直輸入卸小賣
●精撰塊炭　●上等塊炭（海軍御用炭）
●荒塊炭　●切込炭（鐵道御用炭）
弊店の石炭は自巳炭鑛よりの直輸入なるを以て品質一定斤量正確にして價格低廉に候間續々御用命被下度目下多量之貯炭有之候奉願候
赤阪口福狀炭坑賣炭部
合名會社範多商會韓國代理店
大阪鐵工所韓國代理店
韓國京城南大門西側（電話長八二九番）
合資會社長醫商會韓國出張所
仁川濱町一丁目（電話長八三三番）
合資會社長醫商會仁川出張所

最良煉乳
●正味十六オンスの容量あるは全國輸入の多數ミルク中鷲印を措て他に需むる能はず

新築落成
移轉開業御披露
海山樓
當店儀昨年以來櫻井町に於て營業罷在候處今般同櫻井町に新築致居候家屋全部落成致候と同時に同日より藝妓仲居等別ピン數名新輸入致し五月一日より開業致候間賑々敷御來車被下度奉希候　謹言
開業の祝として五月一日より三日間二割引
海山樓
櫻井町一丁目九番八七　電話

明治廿年七月創立●
東京火災（海上運送）保險株式會社
資本金一千萬圓●事務所　京城本町二の三電話二〇六〇番
京城代辦店　本町四　山口吳服店　電話九

開業御披露
巳壽し
並に折詰御好次第
京城壽町丁目
巳すし
（電話一〇一七番）

待合　醉月
京城旭町古屋二丁目城横

會席御料理
富士見樓
本町八丁目

高等待合　紅葉
京城南大門通三丁目起業會社筋向
設備の不行屆と客室の淸潔ならざるは場所の適當なると御愛嬌とを以て償ひ得て餘りありと存候

◉氣候變化＝牛乳
◉牛乳＝純良＝消毒
韓國畜産株式會社
南大門外（電話八八番）

諸傘並に提灯類
印入
和洋蠟燭あり
京城明治町一丁目
大島商店

營業科目
活版活字鑄造
石版銅版
木版彫刻
コロタイプ版
寫眞版
諸機械
製本裝釘
今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築移轉仕候間ノ通營業致候間倍舊御愛顧之程奉願上候也
日韓印刷株式會社
本社　京城明治町三丁目　電話（三二三番）
東京出張所　東京京橋區南鍋町二ノ十　電話新橋（三九六三番）

代理店
新井藥房本店　京城南大門通三丁目（九百四十六番八番）
新井藥房第一分店　京城本町三丁目（電話四七八番）
新井藥房第二分店　京城南大門外

統監府御用
諸官衙人力車
荷物荷造及運搬
伊藤組
營業本店　京城曙町（電話七三番）
同本町三丁目（電話四〇番）

日本郵船株式會社
汽船出帆廣告　電話十一番
仁川海岸通
貨物及船客取扱店
郡回漕店
電話三九番

●釜山長崎門司神戶行
山東丸　五月　九日午後三時出
●大連、太沽、牛莊行
高砂丸　五月二十七日正午時出
●大連、大沽、牛莊行
山東丸　五月二十五日前五時出
●大連、大沽、牛莊行
酒田丸　五月　十三日正午出
●釜山出帆、元山、浦津、浦潮行
立神丸　五月二十六日
御注意　御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料　一枚金二錢▲一ヶ月前金五十錢▲六ヶ月前金……▲郵税一ヶ月……
拾錢
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人　秋山忠三郎
印刷人　高木久太郎
發行所　京城南大門通四小門通　京城新報社
電話六六三番